

TRILL ART CLASS通信

2025年3月号

アートクラスの先月の活動

幼児クラス

幼児クラスでは、面白い形の画用紙を組み合わせるとかわいいお化けを作成しました！ひょうきんな顔をしたピンクのお化けから、重厚な色合いのしっかりホラーなお化けまで、シンプルな課題だからこそ子ども達は自由な発想をふんだんに盛り込んで、作品を作ることができました！

お化けには、目は何個、色は何色、という正解がありません。正解がないからこそその面白さを、小さい子ども達にこそ感じてもらえたら嬉しいです(▽)



小学生クラス

小学生クラスは、踊るニンゲンのシルエットアートにチャレンジしました！あえて顔を描かないことで、体の動きにフォーカスできるようにし、ポーズにぴったりの配色を考えて彩色していきます。一つの作品でも楽しいですが、展覧会で並べて飾った時の雰囲気もとっても楽しい作品に仕上がりました！

普段、僕たちも言葉や表情といった顔を使ったコミュニケーションを便利に使っていますが、体というものなかなか雄弁なものです！という楽しい気づきのある制作となりました。



絵画・デッサンクラス

絵画クラスでは、スプレーを使った新しい表現にチャレンジしました！ここ数年で登場したアクリル絵具スプレー(臭くない！！でも高い！(笑))を使って、斬新な背景を描き、そこに写実的な鳥の絵を描いていきます。現代的な背景と古典的な写実のマッチングによって、素晴らしい作品が出来上がりました！

デッサンイラストクラスでは、シンプルど直球に、「顔」をテーマにイラスト制作に取り組みました！表情の作りこみはもちろん、それに適した配色にも神経を使いながら、エネルギッシュな作品を作ることができました。



おおぞら先生のちょこっとコラム

絵画デッサンクラスの子どもの絵が上手になる理由を考えてみました

教室には「絵画クラス」や「デッサン・イラストクラス」という上級者向けクラスがあります。そう言ったクラスに、小学生クラスから進級した子たちの中には、「周りのお姉さん、お兄さんみたいに上手に描けない」と悩んでしまう子が時折います。

もちろん先生からも、進級直後の子には「初めてやることが多いから、経験者の子と比べなくてもいいよ」と声かけはしますが、本人としては「なぜうまく出来ないんだチクショウ。」という思いはくすぶってしまう。

しかし、どの子たちも、半年～一年くらいたつと、立派なデッサンやイラストや絵画を描けるようになっていきます。「チクショウ」とくすぶっている期間から、立派な作品を描けるようになる間に、いったい、彼・彼女らに何が起きているのでしょうか？

僕自身の経験とも照らし合わせてみると、おそらく彼・彼女らは、その間に「ありのままの自分の姿」を見るのだと思います。順を追ってご説明します。まず、漠然と「自分は絵が上手い」と思っていた子たちが、「絵が上手い」ことが当たり前の世界(クラス)に飛び込むと、一瞬、そのアイデンティティーが崩壊します。アイデンティティーがあやふやになった状態で制作を続ける中で、いろいろな感情が彼らの頭の中を通り過ぎます。先輩たちが当たり前に行えること、例えば人物の左右の目の位置を揃える、といったことが上手くできない。「悔しい」。かと思ったら、髪の毛の色塗りはすごくよく出来て、たぶん先輩たちにも引けを取らない気がする。「うれしい」。といった悲喜こもごもを毎週経験していく。

その中で、子ども達の中にあつた「自分は絵が上手い」という漠然としたアイデンティティーが、「僕は形をとるのはまだ苦手で、でも配色のセンスには自信がある」というように、より地に足の着いた「ありのままの自分の姿」に形を変えていきます。

そして、自分の現状が理解できてしまえばあとは「そこからどうやって歩みを進めるか」という前進のフェーズに入ります。もともと絵は上手い子たちなので、そのフェーズに入ってしまうと雨後の筍よろしくニョキニョキと成長していき、気が付くと先生も親御さんもびっくりするような作品をしれっと描いている。といった、小さな、でも大切なドラマが、教室では日々起こっています。

簡単に描いてしまいましたが、「ありのままの自分を見る」というのはとても難しいものです。体重計に乗らないとダイエットは始まらないし、通帳の残高確認をしないと貯金も始まりません。そんな「わかっちゃいるけど、できません」、ということが多かれ少なかれ、だれにでもあるのだと思います。なぜなら、僕たちは理想と現実のギャップに絶望したくないからです。

このことに関しては、子ども達から学ぶことがあります。それは「ありのままの自分の姿」を見ても彼らは絶望しない、という点です。どうあがいたって「自分は自分」なのだから、この愛おしきポンコツマシンである「自分」をどうにか乗りこなして楽しく生きていくしかない。という、改心が彼らの中にはある気がするのです。

人間は年を取るし、考え方も日々変わっていきます。なので、「ありのままの自分の姿」は時折確認してあげる必要があります。そう考えると、人間は常にアップデートされる「自分」という乗り物の運転を練習している新米ドライバーみたいなものなのかもしれません。というわけで、たまに扉にバンパーをこすったりしつつ、どうにか楽しく生けたら良いなと思っています。「どんな乗り物に乗っているか」よりも「どこに・どう行くか」の方がきっと大切なんですから。

今月の活動予定はこちら